

## ❀❀子宮頸がん検診を受診される方へ❀❀

### 子宮頸がんはウイルス感染が原因です

子宮頸がんの原因は、おもに性交渉によるHPV(ヒトパピローマウイルス)感染です。HPVは、皮膚や粘膜に存在するごくありふれたウイルスですが、感染しても必ずしも「がん」になるわけではありません。早期発見のため定期的ながん検診が大切です。20歳になったら検診を受けましょう！

次に該当する方は、医療機関で受診しましょう

- 自覚症状がある方
- 妊娠中、または妊娠の可能性がある方
- 性交渉の経験がない方  
(医師にご相談下さい。)

当日持参するもの

- スカート
- くつ下

※検査時は素足となりますので、気になる方(冷え症の方など)は、くつ下があると便利です。

注 意 点

- 生理中であっても検査は可能ですが、出血が多い場合は、可能な範囲で別日に受診して下さい。
- 検診後、多少出血する場合がありますが、心配はありません。しばらくすると止まります。出血の量が増えたり、一週間以上続いたりする場合は、念のため医療機関の受診をお勧めします。
- 細胞の状態(過少)によって判定困難な場合があります。

「要精密検査」と判定された方へ

がん検診で精密検査が必要と判定されたのは、「がんを含め何らかの病気の可能性がある」と判断されたということです。

精密検査を受けた方の中で、がんと診断される方は約47人に1人です。

多くの方が「がんではなかった」と診断されますが、万が一の場合、見つかるはずのがんを放置してしまうこととなりますので、必ず精密検査を受けてください。

- 精密検査では、主にHPVの感染の有無・コルポスコープ(膣拡大鏡)での観察・異常が疑われた部位から組織を採取する組織診(検査)を行います。

- 精密検査結果は、当協会と精密検査医療機関で共有しています。

なお、市町村が実施する検診を受けられた方については、精密検査結果を市町村へ報告しています。

